

### 初心忘るべからず ～世阿弥の教えから学ぶ～

昨日は、ほとんどの3年生が私立高校の専願、奨学・特待の受検でした。今朝は、多くの3年生が、やりきったという顔つきで登校していました。

2週間前には本校入学者選考で、小学6年の受検生が、緊張しながらも初々しい決意に満ちた表情で、試験に挑戦していました。彼らの顔つきは、今の中学3年生と同じだなと思うと共に、本校の生徒諸君全員が、1年前、2年前、3年前に、同じ表情で本校選考試験を受けたのだなと考えると、一人ひとりの成長ぶりに感慨深いものがあります。

入試に臨む生徒を見て、改めて、世阿弥の「初心忘るべからず」という言葉を思い出しました。世阿弥が語った「初心忘るべからず」は、単に「初心者の頃の気持ちを忘れるな」という意味だけではありません。「是非の初心、時々の初心、老後の初心」どのような成長を遂げても、その時々の新たな挑戦において生まれる謙虚な心、学ぶ姿勢、感動の気持ちを忘れずに持ち続けることが大切だ、という深い教えが込められています。成長した後も「初心」に立ち返ることで、さらに高みを目指すことができるという意味なのです。

3年生の皆さんは、これまでの努力の成果を発揮する時期にいます。受検は決して楽な道のりではありませんが、自分が目指す未来を信じて挑み続けてほしいと思います。これまでの挑戦を始めた頃の「初心」を思いだしてください。その純粋な思いが、きっと皆さんを支えてくれるはずです。

1,2年生も、日々の学びの中で新しいことに挑戦する機会がたくさんあります。そのたびに、自分の中にある「初心」を見つめ直し、他者への思いやりや感謝の気持ちを忘れずに過ごしてください。そして、今という瞬間に得た経験や気づきを、未来の成長に生かしてください。それこそが、世阿弥の「初心忘るべからず」が伝えたい真の意味であり、皆さんがこれからの人生で大切にしていってほしい姿勢なのです。

### 国際クラス校舎建設工事が本格化します

すでに本校第2グラウンドにフェンスが立ち、国際クラス校舎建設が始まっています。本日、熊大の小川学長はじめ関係者による「校舎新営工事起工式」が行われ、本校校長・教頭も参列しました。いよいよ、工事が本格化します。予定では、令和7年12月の校舎完成です。今後、校舎建設と共に、国際クラスの学習内容等もさらに検討していきます。



国際クラス建設現場（R7.1.23現在）

